

東交大同窓会会報

第 28 号

平成十六年三月八日

東京交通短期大学同窓会

発行責任者 川島一郎
編集責任者 西形伸次



寄贈した校名看板

「東京交通短期大学」 校名看板の寄贈

同窓会長 川島 一郎



学校法人豊昭学園は、母校東京交通短期大学と豊島学院高等学校（旧豊島実業高等学校）および昭和鉄道高等学校の三校を経営しています。

少子高齢化の時代を先取りし、豊島学院高等学校への校名変更と校舎の建替えを順次行い、さらに男女共学化と制服のブレザー化を行って、普通科を総合進学類型選抜クラスと進学クラスにし、応募生徒を増やし、年々クラス数も増加しています。レベルアップも図られ特別進学類型特進クラスを新設し、国立大学へ合格者を出すに至り、現在商業科、機械科、電気科を合わせ三十三クラスになっています。

昭和鉄道高等学校は、国内唯一の鉄道高

校であり、JR各社をはじめとして各私鉄や地下鉄・モノレール会社などに人材を多く送り出し、東京交通短期大学への進学者もいます。鉄道各社における女性社員採用の時代背景もあり、今年から運輸科と機関科を男女共学とし、詰襟制服をブレザー型に変更しました。昭和鉄道高等学校の校舎もすでに建替えに着工し、未来の列車をイメージした昇降口上の空間や交流広場LOKOステーションが昭和鉄道高校をシンボリックに演出したダイナミックな校舎が本年秋に完成予定です。

母校、東京交通短期大学の建物は豊昭学園第六号館であり短大校舎としております。学園の建物新設・増築等の一環として短大校舎も学生ホールの増築、塗装、什器類の取り替え、プロジェクトなど機器の充実を図り、午前中などの空時間には高校も利用しております。短大校舎の入り口脇には運転シミュレーター館や裏側の道路を挟んで第七号館として実習棟も新設され、卒業後久しく池袋や学校に足を運んでいない方は様変わりにはびっくりすることでしょう。

校舎が綺麗になるほどに、入口で歴史を刻んできた「東京交通短期大学」の校名看板が、古くて黒いだけの板のように見え印象を悪くしていました。墨書きの木製であることもあつて文字が読めないほどになっていました。

周囲が明るく近代化したことに合わせ、この校名看板を取り替えることを阿部短大社長と協議し、昨年(の東交祭あとの役員・幹事会で承認いただき同窓会が寄贈することになりました。作成に一ヶ月半ほど掛かりました。が十五年十一月末に新しい校名看板に取り替え「東京交通短期大学」の名称を鮮明に主張できるものになりました。材質はつや消しステンレス製で文字は黒色の浮き出しです。題字は豊島商業学校(豊島学院高校の前身)卒業の、故・明石春浦氏(毎日新聞書道展審査委員長)です。校名看板の側面に「東京交通短期大学同窓会 平成十五年十一月



月「寄贈」の文字を入れました。なお、旧木製看板は東京交通短期大学の歴史物として保存いただくよう学園にお願いしてあります。校名看板の作成発注と設置について阿部学長にご尽力いただきお礼申し上げます。

同窓会員の皆様には、新しく生まれ変わっている母校を是非一度訪問していただき、印象を新たに子息知人に広めていただくようお願いいたします。

(株)ジェイアール東日本都市開発 勤務)

余白を利用して様々な試みをしていきたいと思えます。今号は、箴言です。(①へ続く)

リフォームを終えて

学長 阿部 敏彦



同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

昨年三月末で廣岡学長が退任され、私が理事長、学長代行を兼務しておりますが、理事長を退任し、四月一日付で学長に就任いたしました。私は平成六年末から短大担当理事として経営、学務に携わり、平成八年の夏から短大校舎の増築工事が始まり、二階の学生ホール、研究室三階に図書室が完成しましたが、予算の関係で既存の校舎には手を加えることができませんでした。

昨年の会報でリフォームの計画について述べたと思いますが、理事会に予算の計上をお願いいたし、夏季休業から一ヶ月あまりのリフォームに入りました。教授会、学生会、事務局からの要望を聞き、教室、廊下のパーティション、天井、床、階段の張り替え、内外の塗装、照明器具の増設、トイレを洋式に改修し、それまで、教室、廊下は暗く、壁や床のPタイルは剥げ落ち、木製の扉は建設当時のま

まに南京錠、階段はコンクリートむき出しの状態が、九月上旬には、見違える程きれいになり、後期授業からは、学生や教授から、明るくなり授業が受けやすい、授業が行いやすいと大変好評であり、長年の夢であったリフォームを実施してよかったです。

また、完成に伴い、一階教室にビデオの授業が可能にと大型テレビを四台、二階、三階にはAV機器を新設し、すでに授業で活用されております。さらに同窓会から、ステンレス製の校名看板の寄贈を受けました。有り難うございます。この紙面をお借りして、厚くお礼申し上げます。正面玄関前も整備され、看板も一段と引き立って見えております。

教育環境の整備が進み、これからは教育内容の充実を強化し、基礎教養と実務教育、特に情報科目の充実、また各種資格取得の指導に力を注いでいきたいと考えています。



学校の昔話

副学長 渡邊 一治



私が、この学園と御縁ができたのが、昭和十五年（一九四〇年）でしたから、若い学生諸君らから見ると、大昔の話のように聞こえるかも知れません。当時は、昭和鉄道高等学校も東京交通短期大学も学園の敷地内にはなく、学園も発展途上という状態でした。

ところが、その年の十二月八日には、太平洋戦争が始まり、わが国は緊張した時代に入って行きました。例えば、襟元のボタンが外れておきますと、先生や先輩方から大目玉を食ったり、ズボンのポケットは校長先生の命令で全部縫い付けておりましたので、冬の寒い日でもポケットに手を入れることはできませんでした。今から考えますと、随分無理の多い学校教育を受けたものですが、この無理な教育が今となっては懐かしく有り難かったと感じております。寒いことも、痛いことも、勤労働員で旋盤工の仕事が終わってから無理と思われような宿題も、我慢してやればできるんだという実感と喜びもその

頃に味わったような気がします。

私は、勉強中の学生諸君に「頑張ってね」と良く声を掛けることがありますし、学生諸君からも「頑張ります」と答えて貰うことが多いのですが、どうも、頑張るといのは、寒くても、暑くても、眠くても、友人の誘惑を断つても、ある意味では命がけで我慢をする、それが仮に痩せ我慢だと笑われても我慢をして自分の目標に一步でも二歩でも近付いて行こうとする努力が、頑張りの本当の姿だと思えるのです。

若い時代はいろいろな誘惑も多い時代です。ですから学生諸君もご自分の目標が決まったならば、それから外れるような精力は極力使わないように我慢をして、少しずつでもよいから、我慢を続けながら目標に近付くように頑張ってもらいたいと期待しております。

その為には、諦めないでご自分の目標をきめていただきたいと思います。



短大の近況について

学長補佐 松岡 弘樹



同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと大慶に存じます。

さて、本年度も、教務担当として短大の近況について簡単にご報告させていただきます。

一、新・退任教員について

昨年度、同窓会の原稿入稿後、保健体育理論ご担当の坂口正治先生とハードウェア概論・コンピュータ実習ご担当の水谷正大先生がご退任されました。又、今年度で都市計画論ご担当の高橋賢一先生がご退任されることになりました。各先生方のご尽力に感謝申し上げますと共に今後のご健康とご多幸、そして益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。新任の先生として坂口先生の後任に藤城仁音先生が赴任されました。又、今年度から、阿部敏彦先生が学長に就任されることになりました。阿部先生につきましては別項でご挨拶があることと思っておりますので詳しくは割愛させていただきますが、豊昭学園の理事長及び短大の担当理事として学園・

短大の発展のために人力を尽くしてこられた方で、短大が少子化で厳しい時代を迎える中で学長として手腕が期待されます。

二、学校行事について

本年度の学校行事に関しては、前期には、四月に入学式・オリエンテーション・学外レクリエーション(ハタスポーツプラザにてボウリング大会)、七月にオープンキャンパスの各行事を行いました。

後期には、九月に東交祭、一〇月に交通見学会(東京モーターショー見学の後、幕張プリンスホテルにて和食マナー講習会を実施)、十二月にゼミナール大会を実施し、三月に卒業式を予定しております。

三、時間割について

二〇〇四年度の時間割(案)・特別教養講座の日程が別表のように決まりました。今年度のカリキュラムに関しては、カリキュラムの統廃合を行うと共に基礎ゼミの通年化による基礎教養の向上などを主眼点としております。又、例年ご案内しておりますが、公開講座である特別教養講座への同窓会会員の皆様のご参加をお待ちしております。

最後に、ここ数年申し上げていることですが、短大も少子化・不況等の影響で非常に難しい局面を迎えており、特に入学・就職に関して、同窓会員の皆様の一層のご協力・ご支援をお願いする次第です。

就職(進路)担当者から

就職(進路) 室長 佐藤 勝治



でございます。

同窓会員の皆様には、日頃多数の在校生が採用試験等で大変お世話になっており、衷心より感謝申し上げる次第でございます。

早いもので、進路を担当させていただいて三年の月日がたちました。その間も、相変わらず、不況、リストラ、イラクへの自衛隊派遣問題、さらには年金問題など、社会・世界全体が不安定になってゆく中、就職を志す学生にとっては、非常に不利な社会的要因が重なった時期にかかってしまいました。一部業種では回復の兆しが見え始めてはおりますが、相対的な就職戦線においては、年々さらに悪化に拍車がかかり、採用の抑制や中止に追い込まれている業種が多いのが現状であります。

そのような中、今年も九〇余名が交通短大を巣立ち、社会に飛び出そうとしております。本学の卒業生が内定されている企業の皆様には、特に、このような就職難の時期に一所懸命な気持ちで内定をいただき、これから、ますますさらなる気持ちで、一社会人として羽ばたこう

と決意しております学生に、どうか、社会人としての自覚や心構えなどについて、心強いご指導・ご鞭撻の程を、どうかよろしくお願い申し上げます。

さて、前述の平成不況の最中におきまして、昨今の求人情勢は、昨年にも増して非常に厳しい状況にありました。

このような状況の中、就職内定状況は、学生が本来の力を十二分に発揮して奮闘の結果、鉄道・バス事業所への内定が二十八名(昨年二十六名)、一般企業へ十九名(昨年十四名)と昨年を上回る内定者を送り出すことができました。(二月十四日現在)

鉄道等の各社別にみますと、JR東日本八名(支社別数・東京五名、横浜二名、八王子一名)、JR西日本二名(支社別数・神戸支社二名(予定))、営団地下鉄三名をはじめ、京成電鉄二名、つくばエクスプレス四名、東京都交通局(協力会)六名、新幹線メンテナンス東海一名、富士急行一名、神奈川中央交通一名など、多方面への内定となりました。

また、鉄道以外の企業への就職者も物流、サービス(家電量販店や東急系リゾート関係など)等、多岐にわたる分野へ内定をいただくことができました。

また、十五名(昨年七名)が四年制大学への編入や専門学校へ進学することになっております。

就職活動・試験も年々早まっており、現一年

次の採用試験自体も、定期試験の時期には始まっています。その事実を踏まえて、本学の就職セミナーでも、そのエントリー時期に適応した体制へと変革しようとしております。昨年からは半期ながら基礎ゼミが一年次に開講され、さらに本年度からは一年間の開講となることから、基礎ゼミとリンクし、本来の就職セミナーとともに就職試験準備、意識の高揚を図り、一般教養の基礎固めをしてゆきたいと思っております。

今後とも、さらなる就職率アップのために、皆様からのご助言、ご協力を、心よりお願い申し上げます。

入試便り

学生部長 沼田 憲治



本年から、ホームページ関係は遠藤さんに譲り、私からは入試に絞ってご報告いたします。まず、過去六年間の入試

状況をまとめた次の表をご覧ください。
(注 平成十六年度は第二回一般入試まで

の数字)

この六年を簡単に振り返ってみましょう。

	推薦入試		一般入試		合計		倍率
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	
H11	120	101	94	18	214	119	1.79
H12	98	85	75	36	173	120	1.44
H13	73	69	48	46	121	115	1.05
H14	77	76	52	49	129	125	1.03
H15	56	56	60	59	116	115	1.00
H16	78	74	41	30	119	104	1.14

本学の入試は長らく(平成十二年度まで)、推薦・一般それぞれ一回ずつの二回体制でした。それが、十三年度に志願者が激減したのを契機に(志願者が前年度からなんと、五十二名減。この年は追加募集を実施)、翌十四年度から一般入試を三回に分け、推薦と併せて計四回入試を行うようになりました。これを二年続けましたが、昨年ついに、推薦入試の志願者が六〇名を切ったのを重く受け止め、今年

は推薦入試に指定校制を加え二回実施、一般入試も一回増やして四回、併せて計六回の入試体制となったのです(十月から三月まで毎月一回実施)。この結果、今回は、推薦入試の志願者が七十八名と二年前の水準に戻り、二月一日現在で一〇四名の合格者を

出しています。何より、倍率が一・一四倍と、過去四年間で初めて一・一倍を超える数字になったことが大きいと思われれます。

今回、一般入試の志願者が四十一名とやや低調ですが、これは一般入試を四回に分けたことにより、受験者が分散したことが多少影響したものと思われれます。上の表からは窺えませんが、十月の一回目の推薦入試だけで、受験者数は前年度より九名増、十二月に実施された第一回一般入試でも、前年度比八名増という結果でした。毎年七月末に行っているオープンキャンパスでも、今年度は初めて一〇〇人を超す参加者があり、本学への入学希望者の関心は高まっていると言えるでしょう(ただ、入学希望者をどう受験にまで結びつけるかについては、まだまだ課題が残っていると言えますが)。いずれにせよ、現時点(二月十三日)で、辞退者三名を引いた一〇一名が入学手続をすでに済ませており、予算定員一杯の一六名までの残りは十五名。これを残る二回の一般入試(二月十五日と三月十四日)で、なんとか確保したいというところです。

また、昭和鉄道高校と豊島学院高校からの内部推薦入学者に関してですが、今年も現時点で昭鉄からの二名のみと、ここ数年の凋落傾向に歯止めをかけることは出来ませんでした。かつては高校側からの要請で二回開

催していた説明会も出来ない有様で、今回はついに、内部推薦入試を中止せざるを得ませんでした(昭鉄の二名は公募制推薦入試を受験)。進学希望者は四大志向、就職希望者は専門学校へという今の一般的傾向が、豊昭学園でも定着してしまった感があります。ただ、ご存じの通り、この四月から昭和鉄道高校は男女共学となります。これを機に、学園内の「短大離れ」をどう食い止めるかが大きな課題といえましょう。

「短大離れ」は、もちろん、学園内の問題に止まりません。近年、いろいろな高校の先生方と話をする機会が増えてきています。そこで、実際、「短大より専門学校を勧める」という声を多く進路指導の先生方から耳にします。短大にとって非常に厳しいこうした情勢の中、いかに本学の「独自性」、「ユニーク性」をアピールしていくか。昨年八月、校舎を全面的にリフォームし、ハード面での改善はかなりの程度図られました。今後求められるのは、低学費、少人数制、交通・鉄道への就職、人間教育重視といった交通短大の過去の伝統を踏まえた特徴をさらに強く内外に打ち出していくことだと思われまます。

この先、数年に渡り本格的な少子化の波が押し寄せると言われています。今回倍率が一倍を超えたとは言え、再び「不合格者ゼロ」の全入時代がやって来ないとは限りません。

カリキュラムのさらなる充実を図り、全ての教員が一致団結して、質の高い、よりよい教育に向けての一層の努力が求められてくるでしょう。

最後になりましたが、今後も同窓会の皆様のご協力をお願いいたします。

● インターネット URL

東京交通短期大学公式ホームページ

<http://www.hosho.ac.jp/toukou/>

i モード版

<http://www.hosho.ac.jp/toukou/i/>

● E-mail

短大代表 kotsu@hosho.ac.jp

入試関係 nyushi-k@hosho.ac.jp

沼田憲治 numata@hosho.ac.jp

原稿執筆案内

一、題 材 自由

二、執筆要領

- ・ 文章の場合 市販の原稿用紙か電子データの入ったFDを郵送、または電子メールにて、八〇〇字程度でお願いします。
- ・ 写真/イラスト/カットの場合 そのまま版下とします。電子データでも結構です。いずれもタイトル、卒回、氏名、勤務先を明記し、写真も添付してください。

三、原稿締切 毎年一月末日

四、送付先 〒一七〇〇〇一一

東京都豊島区池袋本町二一九一
東京交通短期大学 同窓会事務局宛
電子メール: snisi@vanilla.freemail.ne.jp

会員解放区

私の生涯学習パート

第三回生 百村 豊吉



前々回二十六号の中に「私の生涯学習パートII」というテーマで原稿を書かせていただきました。今回はさらにいろいろの面から述べさせていたただきたいと思っています。

近年、中学生による保護観察事件が急増し、特に平成七年から平成十四年までの八年間に約四倍に達するなど、これら中学生の保護観察処遇を進めるに憂慮すべき状況にきていると思います。最近の例では「長崎の十三歳の男子中学一年生の生徒が五歳の男児を五階の駐車場より突き落とす」という、まるでお人形を簡単に投げ落とすというゲーム的感覚で行動をしている現象をみると極悪非道としか表現できません。これらの事件の発生を考えてみると、幼少の時の家庭のしつけというもの

平成 16 年度 特別教養講座カリキュラム

前期 (土) 13:30 ~ 14:50

(敬称略) *は本学卒業生

開講日	講演者		テーマ
4月17日	関根 恒郎	本学名誉教授	日本精神論-日本人の心の奥にあるもの
4月24日	斉藤 順治	JR 東日本(株)東京支社 総務部勤労部長	JR 東日本の現状
5月 8日	*阿部 敏彦	本学学長	人生に恩師を持って-その人とのふれあいについて
5月15日	村上 清子	国立国会図書館主題情報部人 文課主査	図書館と情報-文献の探索
5月22日	青木 栄一	東京学芸大学名誉教授	池袋・新宿・渋谷-鉄道のつくった副都心
5月29日	*遠藤 裕生	(株)アトム・エンジニアリング	就職用ではない、鉄道と自動車趣味学
6月 5日	鈴木 順一	本学名誉教授	今世界の空、日本の空はどうなっているか
6月12日	森田 喬	法政大学教授	地図に見る交通
6月19日	高橋 敏夫	拓殖大学副学長	e-Japanを通してのIT社会
6月26日	荻原 俊夫	東京急行電鉄(株)鉄道事業本部 電気部統括部長	東京急行電鉄の鉄軌道業について
7月 3日	菅 建彦	(財)交通文化振興財団理事長	交通博物館の世界
7月10日	*瀬賀 政一	JR 東日本(株)西日暮里駅長	鉄道の安全と基本の大切さについて

後期 (土) 13:30 ~ 14:50

開講日	講演者		テーマ
9月25日	*半沢 貞夫	(株)交通新聞社販売部調査役	鉄道と出版
10月 2日	神立 哲男	JR 貨物(株)関西支社広島支店長	JR貨物の経営の現状と課題
10月 9日	成瀬 敏郎	東京情報大学教授	IT時代のデジタルリスク管理
10月16日	小山 徹	埼玉大学客員教授	都市交通の特質と路面電車の再生
10月23日	島田 啓子	帝京平成大学助教授	情報教育の現状と将来像
10月30日	大山 茂夫	大学朝日人の会常任幹事	新聞をどう読むか
11月 6日	*川島 一郎	(株)ジェイアール東日本都市開発 ショッピングセンター事業本部副 本部長	元気な JR 東日本グループ
11月13日	平田 一彦	東武鉄道(株)経営統括本部 経営企画部長	民鉄経営の現況と課題
11月20日	予備日		
11月27日	桜井 寛	フォトジャーナリスト	ヨーロッパの鉄道に学ぶこれからの新幹線
12月 4日	佐藤 美知男	交通博物館専任学芸員	鳥瞰図の世界-沿線案内図に見る交通史
1月 8日	廣岡 治哉	本学名誉教授	経済と交通
1月15日	特別教養講座をふりかえって		

※ 特別教養講座は公開講座(無料)です。日程は変更する場合がありますので、聴講を希望される方は事前に短大事務局(03-3971-4704)へお問い合わせの上、ぜひお越しください。なお、11月27日はオープンキャンパスを兼ねており、入学希望者優先となりますのでご注意ください(15:00-16:20)。

平成 16 年度 時間割表 (案)

1 年次

2 年次

第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限		第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限
13:30 ~	15:00 ~	16:30 ~	18:00 ~		13:30 ~	15:00 ~	16:30 ~	18:00 ~
歴史学 (安彦)	簿記論 (佐藤良)	法学 (渡邊)	基礎ゼミ III (沼田)	月	観光 事業論 (小池鉄)	サービス 産業論 (小池鉄)	海運論 (山岸)	民事法 ゼミ (渡邊)
海外旅行 実務論 (勝岡)	旅行業務論 I (石川)		交通関係 法規 (松岡)			経営 管理論 (安彦)	交通判例 分析ゼミ (松岡)	
フランス語 (沼田)	統計学 (岡本)	交通 経済学 (上遠野)		火	鉄道工学 ・後期 (君島)	自動車交 通論 (上遠野)	交通論 ゼミ (秋山)	
	文学 (沼田)	基礎ゼミ I (阿部)	環境科学 概論 (中村)			鉄道経済論 ・前期 航空経済論 ・後期 (秋葉)		
観光地理 (市川)	交通概論 (秋山)	基礎英語 (小池知)	鉄道 施設論 (安藤)	水		観光地理 研究ゼミ (市川)	欧米文化 論ゼミ (沼田)	
哲学 (篠原)	観光関係法規 (森住)						都市・地域 交通論 (秋山)	
経営学 (亀川)	情報概論 (井関)	コンピュータ 実習 (井関)	コンピュータ 実習 (小野寺)	木		経営法学 ・前期 情報関係 法規・後期 (松岡)	国際 観光論 (井上浩)	英会話 (井上浩)
中国語 (謝黄)			体育実技 (板東)			基礎経済 学ゼミ (亀川)		
心理学 (兼高)	基礎ゼミ II (松岡)	観光学 概論 (井上博)	コンピュータ 実習 (花山)	金		旅行論 ゼミ (井上博)	物的 流通論 (古井)	ホスピタ リティ論 (石隈)
旅行業務論 II (森住)		保健体育 理論 (藤城)						
特別教養 講座	経済学 (長谷川)	交通 技術論 (樋口他)	自然科学 概論 (佐藤信)	土		鉄道 運転論 (安藤)	社会政策 研究ゼミ (長谷川)	
	検定英語 (小池知)							

大切に感じられます。親自身の考え方、子育てへの貧弱な知識が子供の自由を奪い、大人の身勝手な押しつけを躰の名のもとで行うという大人の暴力に気づいていない立ち振る舞いが、もつと大切なことを感じ取り、わきまえるための躰を放棄しています。特に問題を起こしている子供の親の姿勢(子供への対応)をみてみますと、大半が見栄っ張りでうぬぼれが強く、子供との対話があまりなく、お金を与えておけば子供は成長していくものと考えているようです。そして「うちの子に限って、そのようなことはしてません」という無責任な回避をしているのです。

そのために、子供の人格形成の初期の段階で成長に必要な基本的な態度や、わきまえを身につけさせることが大切なのです。

次に、子供に社会的な規範や原則にかなつた行動やマナーおよび伝統や習慣などを習得させることも大切なのです。

そして、地域社会の一人一人が子供の視線に目を向けて、声を掛け合っていくことがとても重要であります。

(現在、保護司・市立病院・

札幌市観光案内ボランティア活動)

① 青年よ大志を抱け。

(2) (続く)

社員の知らない所で 紙のリサイクルに一汗

第四回生 小泉 林三



私が勤務するニチメン(株)では、平成十一年一月、「ISO一四〇〇一」を取得した。基本

理念は「地球環境の保全に貢献すること」で、その達成目標の一つに「紙のリサイクル率の向上」がある。

ところで、私の通勤所要時間は長いので、ラッシュでの立ち通しの通勤が年々つらくなってきた。そこで十数年前から早起きをして、早朝通勤を始めた。午前九時の始業時刻二時間前には会社へ到着する。この時間帯だと電車はすべて座れる。そんなこともあつて、この空き時間を利用して「紙のリサイクル」に協力することを思い立った。

さて、私の所属する食料本部には八つの課があるが、各課には色分けされた廃紙入れボックスが置かれている。灰色のボックスは上質紙用、オレンジのボックスは新聞、チラシ、封筒、色地の紙、パンフレット等、黒ボックスにはメモ紙、タバコの空き箱、名刺、ちり紙、紙くず等、さらにビン、カン用とプ

ラスチック、ビニール、発泡スチロール等を入れる大型の専用ボックスが置かれている。会社では社員に紙の分別を徹底させるため、講習会を開いたほどである。

ところが「のど元過ぎれば何とやら」で、ISO制定後一ヶ月もたたないうちに、分別の仕方が怪しくなってきた。なぜボックスを色分けして紙の分別を呼びかけているのか、理解していない社員が多いのには驚いてしまう。

それぞれのボックスに入れられた紙類は、さらに種別ごとに大型のカートに空けるのだが、ボックス内には紙がきちんと区分されずに入っているため、全部のボックスから中身を分別してカートを移すのに、毎朝三〇分もかかってしまう。しかし、この作業で全身を動かすことが、身体を目覚めさせる準備体操の役割を果たしており、私にとつては一石二鳥である。

分別作業が終わる頃、社員が一人、二人と出社してくる。従つて私が一人で毎朝、紙を分類していることを知っている社員は少ない。省みれば早いもので、分別を始めてからすでに五年が経過した。だが自分の意志で始めたことであり、地球環境保全のために、ほんの少しだが役立っていると思うと、明日も心地よい汗をかこうという気持ちになつてくる。

(ニチメン(株)派遣社員)

二度の定年をむかえて

副会長 (第五回生) 篠崎 正人



第一の職場(池袋)を六〇歳定年で、第二の職場(日本橋兜町)も六十六歳まで、これも定年となりました。

愈々これからは毎日が日曜日で、サンデー毎日となるので、さて何をして過ごそうか考えました。先輩に聞いたところ趣味を楽しんでいるとの事。

月日の流れは速く、ついこの間同窓会誌の原稿を書いたと思ったが、またその時期を迎えた。

振り返ると夢中で歩んできたサラリーマン人生だった。最初の出だしは長野県の高校を卒業し、池袋の東京交通短期大学に入学し、そして就職、結婚した。子供が生まれ、家を建て、病気を克服し、孫にも恵まれました。ここまでは常識の社会で無事経過しました。

常識とは何ですか、フランス、ドイツ、イタリアを始め欧州諸国では、昼休みは三時間あつて必ず食前にワインを飲むことが常識となっています。酒酔い運転だから我

が国の常識では考えられませんが、規律規律といいますが規律とはまず多くの人が物事を持ち寄つてできあがった規則或いは法律といつて良いでしょう。然しこれとて「バカカの壁」著者、養老孟司を読むとよくわからなくなつてしまいます。



改めて趣味を考
えると、麻雀、ゴルフ、似顔絵、読書、楽器、カラオケであり、今後継続できそうなことは、

麻雀、ゴルフ、読書、体操です。このうちまずこれからは健康第一と考え、始めたのがラジオ体操でした。朝五時十五分に起床し、朝の空気を胸一杯に吸つて、①モーニングストレッチ②みんなの体操③中国体操④ラジオ体操操第一⑤ラジオ体操第二、この五コースの終わった後の清々しさは、何ともいえない充実した気分になることができました。早朝から妻と二人して自転車を走らせ会場まで毎日コースを行くと、四季の移ろいを肌で感じ、自然のすばらしさに接することができ、あらためて感動しきりです。これも現役時代には到底味わうことのできなかったことです。また地域の人たちとの交流も何よりの収穫です。「生き方上手」の著者、聖路加病院名誉院長日野原重明

先生の新老人には少々間がありますが、本当の意味でこれからは、マイペースで夫婦共々元気で一日一日を充実して過ごしたいと願っている昨今です。

瀬戸大橋への観光の旅

第七回生 宮本 茂



明けましておめでとう
ございます。
良い新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

私は今年、喜寿の年令となりました。年に二、乃至、三回程程度の小さな旅行を楽しんで居ます。

昨年は、標題の瀬戸大橋に行つて来ました。町内老人グループの旅でした。

昨今は、新幹線を利用すれば国内旅行は本当に気軽な旅となりました。

今から十五、六年前の昭和六十三年、初めて本州と四国が陸続きの瀬戸大橋が開通しました。当時の観光熱も落ち着き、むしろ今は地元的生活とともに瀬戸内の風景に溶け込んで居る姿が印象的です。

岡山から高松まで、瀬戸大橋を通過して電車で約一時間。今でこそ列車を利用すれば近い四国ですが、この瀬戸内海は航海が難しく、近くて遠い島でした。歴史的にも瀬戸内海を支配した村上水軍や塩飽海賊衆など高い航海術を持った集団の存在がそれを証明しています。

瀬戸大橋の全体像を見渡せる鷺羽山。その標高が橋の高さと近いため、橋を眺める場所として推す人が多いところです。頂上まで登ってみると、なるほど迫ってくるような巨大な吊り橋の迫力、「橋ができる前は不安でしたが、今はこの塩飽諸島の眺めにマツチしていると感じます」橋がない時代から、ずっと見守って生活してきた地元の人たちは、そんな感想ですと教えてくれました。美しい内海の風景に溶け込む姿は、瀬戸内海と共に生きてきた人たちの表情と同様に穏やかそのものでした。今回の旅行も老人ばかりでしたが、良き思い出となりました。

東京交通短大同窓生並びに学生の皆さん、どんな小さな旅行でも勉強と思いつ間の許す限り見学に行かれてはいかがでしょうか。寒さの折りお身体ご大切にしてください。

最後に同短大のますますの発展を祈念して終了いたします。

人生二毛作、今青春！

第一〇回生 田嶋 政明



四〇年余の勤め終え、退職し三年あまり経ちましたが・・・自分は心の柱として三つの戒めがあり、常日頃守って今

日までできました。

一、一源三流ということ

友ノ為に涙ヲ流シ

家ノ為に汗ヲ流シ

国ノ為に血ヲ流ソウ

根本は誠の心で、誠心誠意ただひたすら尽くすこと

二、王陽明の四耐不二ということです

冷ニ耐エ、苦ニ耐エ、煩ニ耐エ、閉ニ耐エ、激

セズ躁ガズ、競ワズ、随ワズ以ッテ大事ヲナスベシ

不動の心、態度を常に持っていないと大事は為せないということ

三、サミュエル・ウルマンの「青春」という詩で

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ(中略)

人は信念と共に若く疑惑と共に老ゆる人は自信と共に若く恐怖と共に老ゆる

希望ある限り若く失望と共に老い朽ちる(後略)

以上三つの戒めのもと農業を営み第二の人生を青春しています。

四季のめぐりの早さ、一年の季節の変わり目の大変さを痛感しています。

諸先輩又後輩の情報を機に応じ時に応じて拝見し、頼もしく感じています。

農業は自己責任の仕事で、自分の出来る範囲で無理なく一年計画で日々連続して、炎天酷暑、厳冬なく続く仕事なので身体が資本であります。良い品物を、長期間出荷し付加価値を高め信用が大切と体験し汗で学びました。JA榛沢の一員ですが、榛沢のトウモロコシ秋冬、春のブロッコリーの出荷量は日本一です。その中で仕事できるのも、東交に苦学し今の自分の心の原点は各諸輩と同じ、仕事と学校生活を両立した時代があればこそです。それぞれ、進路職業、年令、体験は異なっても東交で志学は共通です。その意味から、私は今青春、人生二毛作を楽しんでいます。



楽しかった学園生活

第一〇回生 蓬田 清吉



卒業してから何年の月日が経ったであろうか。学友と席を並べて学んだことを走馬灯のように思い起こしている。賀状を交わしていた学友も大勢いたが、今は、川崎勝信さん、福島嘉外さん、堀丈夫さんの三人になってしまった。

本学で学んだ授業科目で楽しかった科目は、数ある中から哲学、憲法、ドイツ語、数学、簿記、交通総論であった。

哲学は、アガペーの愛、ヒリアの愛、エロースの愛について学んだ時、哲学の真の深さに感動を覚え、哲学に親しむことができた。

憲法も同様であった。憲法の前文、そして全条文の中から重要な条文の逐条解釈で憲法の真の重要さを学ぶことができた。

ドイツ語も楽しかった。予習は本当に大変だったが、教室においてはドイツ語の中に引き込まれていたようであった。当時、三修社のドイツ語のテキストを購入し、今では考えられないソノシートを小さなプレーヤーにかけ、ドイツ語の発音に何回も何回も耳を傾

ける情熱を学ぶことができた。

数学は、驚きそのものであった。A4サイズの用紙を横に使用し、左側四分の一に公式を書き、中央の四分の二に通常の計算を書き、右側四分の一に補助計算を書くシネマスコープ型のノートの取り方であった。

簿記は本当に難しかった。しかし、一日は二十四時間、一週間は七日であると理解しているように、仕訳も借方、貸方をそのまま理解することが大切であると、考えを変えたと仕訳も容易に理解できるようになった。

交通総論も目を見張るものがあった。日頃は単なる交通機関にすぎなかったが、鉄道と自動車の比較検討、分析には目を見張る奥深いものがあった。レポートの提出を小論文の提出と勘違いをして多くの文献を集め、小論文を書いてしまったことも思い出される。

本学を卒業後、もう少し勉強をしたいと思いい立ち、明治学院大学に編入学することができ、経済学部経済学科で学びつつ、商学科の授業科目も二、三履修し、二週間の教育実習の経験を経て、商業の教科の高等学校二級の教員免許状を取得することができた。

その後、縁があつて国際基督教大学に職を得、事務局で三〇年間、前向きな姿勢で働くことができた。今は、東京神学大学の事務局で事務の責任者として籍を置いている。

夢を持つこと

第一〇回生 堀 丈夫



私事ではあるが昨年還暦を迎えてから生涯現役を意識するようになった。でも考えてみると人間は、生きている限り生命生活の「現役」である。つまり生涯現役というのは、当たり前の話だ。

私の目標としたのは、「社会的現役」である。「現場」で主体性を持って、自分の行動を決めていく人でありたいと思っている。収入のある仕事をしている人だけが現役なのではない。

「現場」とは、未来を切り開いていくことである。未来が見えずに、死にたい若者が多い現在、あらゆる世代に必要なのは、「現場」未来を切り開き生きる力である。

いま年齢に関係なく「現役」の人が減っている。それは、どこでも行われている、あらゆる仕事に、誰にでも出来るようにマニュアル化し、個人が責任を持って仕切るべき「現場」が、どんどん少なくなっていることが原因だと思ふ。現在は、若いうちから責任を持たされず、判断も迫られずに仕事をしてきた人たち、つまり、もとより現場を知らない人には、生きる目的を見つ

けることさえ困難なのではないだろうか。マニュアルで仕事をして同窓の諸君には、是非自分の行動を自分で決める人、マニュアルを読むことと「判断」の出来る人になってもらいたい。

日本は、世界でもまれな「個人社会」であると言われている。会社が、コミュニティの「現場」であり社会的現役にしがみついていた。

私の生活は、会社だけであった。生涯現役でいたいと思うのでこれからは、「他の社会」「家庭」や「日常生活」の現場を取り込むことを考えたい。会社人間から社会の生活者になるのだ。このことで地域も家族も現場となり、この現場は、誰がなんと云おうと死ぬまで自分のものである。

(株)ジェイアール東日本都市開発 勤務)

戦後の鉄道から今日と明日

第十二回生 佐藤 英雄



私が大学にお世話になつてから、かれこれ四〇年になる。時の流れの早さは否応なく過ぎ去り、その問学校の授業の内容も随分変わったと聞き及んでいる。

思えば昭和四〇年、戦後二〇年の歳月を経て、鉄道も新幹線が走る時代に入る。在学時代に鴨宮〜小田原駅間の試乗会が催され、われわれ生徒も、学校のお陰で乗せてもらえる機会を得た。その時の感動は今も忘れられない思い出である。

私はいま国土交通省の外郭である社団法人で微力ながら、街づくり、国土づくりの仕事に従事させていただいている。これも母校のお陰と感謝しています。

戦後の日本の鉄道は、「乗る」「走る」「降りる」という機能だけを重視したもので、貨物は日本の大動脈を走る貴重な物流の要であつた。それが二〇年後には新幹線が走り、貨物は道路網の発達でトラック輸送時代に入る。そしてさらに三〇年を経た今日は、国が提唱した「一日交通圏」時代となり、「人」「物」は更に遠く早く運ぶことが出来るようになった。これに伴つて、サービス面が向上し、駅はコミュニティという機能を有するようになり、乗降客の目を楽しませてくれる。

高齢化社会の移行に向けてバリアフリーの整備、身障者のためのサービスも目覚ましい。介護なしで日本中の観光地や目的地に旅行できる日も近いことであろう。

さて、在校生の皆さんの中には、私が昔乗せてもらった新幹線から、今度はリニアモーターカーの試乗を経験した人もいるのではない

でしょうか。卒業してから四〇年、学業を通じて学んだもの、社会を通じて得た経験が現在の私を支えてくれている。

皆さんが二〇年、三〇年経た時、日本の交通は一体どうなつてゆくのか、想像してみても楽しいものではないでしょうか。

(社)国土政策研究会 勤務)

趣味を生かした人生を

第十五回生 渡辺 義春



国鉄へ入社以来、鉄道生活三十五年、仕事一筋の人生でした。家庭内の様々なこと、子供の教育などすべて妻まかせでした。

父兄参観日、運動会、子供会の行事など一度も顔を出したことはありませんでした。今考えると、ずい分と子供たちに淋しい思いをさせ、妻や子供たちに申し訳なかったなと、つくづく思うこの頃です。ですから現役の頃の趣味といつても、ゴルフや麻雀等いろいろやってきましたが、それもこれも半分は仕事上の付き合いからで、ほとんど無いに等しいよ

うなものでした。それでも、私は子供の頃から野球やソフトボールが好きでしたので、町内のソフトボールチームに入り、対抗試合など時間があるときは出場したりしていました。その仲間たちと昭和六十三年に審判の第三種をまた平成十四年に第二種を取得しました。

JRを退職した後はそれを生かし、地元ソフトボール連盟戦や子供会の大会、また他の市町村で開催される試合などには派遣をし大声を出したり、走ったりと多少の趣味はやっております。現在は月のうち十日位の出勤という時間に十分余裕ができた仕事なので、審判のほか、ウォーキングも始めました。御殿場五〇雀という散歩会に夫婦で入会し、月に二回山行が計画されそれに参加しております。健康第一と夫婦で共通の趣味を持ちできるだけ参加し、掛川市や八王子方面まで足をのばし、そちらの名所旧跡などを見ながら散策しています。七〇〇人位の会員数なので、今まで仕事上の友人以外あまり友達もいなかったが、いろいろな分野の知識人とも友達になれ、散策会も大いに楽しみの一つとなりました。

また日々の生活の中でも毎日一万歩を歩こうと夫婦で決め、夕食後雨が降らない限り二人でコースを決めて歩いていきます。歩きながら妻の愚痴を聞いたり、お互いの友達と

の楽しかった会合の話などを言ったり、聞いたりと一時間ストレスを発散しながら歩いていきます。年々足腰も弱くなってきました。体力維持のためにも努めて体を動かし、夫婦二人いつまでも若さを保って、人生という道を歩いていきたいと思います。

青森県のPR

第十八回生 武井 清



昭和四十四年入学し二年間学びました。当時の勤務先である三八五貨物(現三八五流通)の好意により終業時間を十六時頃にしてもらい社員食堂にて夕食をし、地下鉄東西線木場〜大手町乗り換え〜銀座線池袋まで通学したものでした。当時は二科目それぞれ八〇分授業だと記憶しています。我ながらよく二年間、就業しながら通学できたと思います。昭和四十六年卒業後、地元青森市へ転勤、その後昭和四十七年転職、三〇年程在籍しましたが平成十四年退職、平成十五年転職し現勤務先は三度目の就職先です。

さて、自分が半世紀と？年生存し、暮らしてきました我が青森県のPRをさせていただきます。八つの市と三十四の町、二十五の村の六十七市町村があります。位置は、北緯四〇度十二分から四十一度三十三分、東経一三九度三〇分から一四一度四十一分の間の本州最北にあり、ニューヨーク、マドリッド、ローマ、北京とほぼ同緯度に位置しています。面積は九、六〇六・五二平方kmで、日本全国の中では第八位の割合を占めます。二〇〇〇年国勢調査に基づく人口は一四七万五、七二八人で、全国で二十八位、東北では宮城県、福島県に次いで第三位。世帯数は五〇万六、五四〇世帯。気候は、冷涼型の気候に属し、県内でも中央部に位置する奥羽山脈により気候がいちじるしく変わり、冬には湿った空気が山脈にぶつかり津軽地方に雪を降らせる一方、夏は偏東風(通称やませ)のため、太平洋側で低温の日が多くなる時があります。季節の移り変わりがはっきりして、どの季節も自然が美しいのが特徴です。気温は平均気温一〇・一℃、最高三十七・九℃、最低マイナス二十二・四℃、降雪量は年間平均降雪量七六五cm、最大降雪量一、二六三cm。

世界に誇れる資源としては、
 ・世界遺産に登録されました白神山地ブナ原生林広さ世界一 一六、九七一ha、

- ・海底に続く青函トンネル長さ世界最長五十三・八五km
- ・トンネルの全長にほぼ近い五十二・七五km間すべて溶接して一本のレールとした世界一のスーパーロングレール
- ・生息北限世界一、北限のニホンザル北緯四一度三〇分、東経一四一度に位置する下北半島の脇野沢村を中心に生息する北限のニホンザルは、学術的にきわめて貴重な存在とされ、国の天然記念物に指定されている
- ・日本一を誇る資源
- ・りんごの収穫量四九一、五〇〇t全国の半分以上
- ・にんにく収穫量二六、二〇〇t全国の約三割
- ・菜の花畑の作付面積約二〇〇ha
- ・ながいも収穫量六二、五〇〇t全国の約四割
- ・高さ日本一、五所川原立ねぶた高さ二十二m
- ・歴史日本一、縄文の三内丸山面積三十五ha、推定最大人口五〇〇人、今から約五五〇〇年前〜四〇〇〇年前の日本最大の集落。
- ・大きな歴史の長さ・出土品の多さなど全てが国内最大級です。二〇〇〇年十一月には国特別史跡に指定されています。
- ・長さ日本一、城ヶ倉大橋全長三六〇m、青森市から八甲田山に向かう途中の城ヶ倉溪

谷をひとまたぎする日本一の長さを誇る上
路式アーチ橋。アーチ支間長(支える足と足
の間の長さ)二五五m、谷底までの高さは一
二二mもあります。

・高さ日本一、黒石市のジャンボこけし、黒石
市の温湯温泉を中心に津軽地方で発達して
きた津軽こけし。全国のこけし三、〇〇〇点
が展示される黒石市津軽こけし館にあるジ
ャンボこけしは、高さがなんと二mもあり、日
本一の大きさを誇ります。

その他にもメジャーなところでは二〇〇万
人が訪れる弘前市の桜祭り、八月二日〜八
月七日まで全国・世界から三五〇万人を超
える観光客を迎える世界の火祭り“青森ね
ぶた”、入り込み観光客三五〇万人の十和
田八幡平国立公園、二〇〇二年十二月に開
業しました。

東北新幹線「はやて」が盛岡から八戸まで
延長し首都圏より三時間足らず、JR東日
本のまとめによると、開業後十ヶ月間の「は
やて」の盛岡〜八戸間の乗客は前年比一五
二%と好調、開業後半年間の八戸市への経
済効果一三三億円との試算がある。残念な
がら当青森市への延長工事はしていませんが開
業は一〇年後ではないかといわれています。

青森県は四季折々の自然が美しく、山海の
食物が美味しく、酒も旨いし、通勤族は身体
が丈夫になって帰って行きます。また八甲田

山や岩木山や白神山地の貴重な高山植物、
生き物が生息していますので是非ともトレッ
キングをお楽しみください。冬期間は大きな
スキー場が大鰐温泉スキー場、西武系の鱒ヶ
沢スキー場、八甲田山スキー場があります
最近スキー人口の減少により経営的には厳
しいです。スキーを楽しむ人にとっては空いて
いて非常に良い。以前は冬期間のツアーとい
えばスキー場、温泉場を訪ねるのがほとんど
ですが、太宰治誕生地の地、北津軽郡金木町
では十七年間こつこつと地吹雪体験ツアーを
実施しており今までに八、〇〇〇人ほど参
加しました。これは雪のない地域の人々に雪
の厳しさ、楽しさを体験していただくもので
回を重ねることに参加者が多くなり、今で
はハワイ、南米からの参加者もあると聞いて
います。また、岩木山の麓の旅館では屋根の雪
降ろしを一日すると、宿泊代を無料にしま
すというツアーを募集したところこれも参加
者がある。このように体験型のツアーが増え
てきており、グリーンツーリズムも多くなっ
てきました。これからの旅行は物見遊山ではな
く、トレッキング、農林漁業などの体験型が
増えてくると思います。

(奥羽道路サービス(株) 勤務)

② 富や自らの功績のためではなく、
(③へ続く)

思いだすままに

第十九回生 川井 宏一



今回、同窓会会報の原稿の依頼を受け思いだすと、もう卒業してから三十二〜三十三年が経過しました。その間に同校を訪れた記憶といえれば文化祭に一回。ある資格を受験しようと思っていたときに、その資格の公開授業があるという情報が入り、受講させていただいたこと。後

回は法事で川越街道を車で走行中に、妻と子供にここが私の母校である旨を話したことが思いだされました。

学校生活での思い出は、その当時駅勤務で徹夜勤務があり一週間に三〜四日程度学校に行く事が出来れば良い方でした。いつも追試、レポートの提出に追われていました。レポート提出の期限が迫ってくると、同じクラスメートの持木君の家に行き知恵の拝借とお母さんの食事をごちそうになり、そのおかげで卒業できたものと感謝しています。

いつもの通り年末の大掃除をたいしてするでもなく過ごし、何を思ったか年始を過

ぎた頃、本棚の一部を整理したところから第十九回卒業文集なるものを発見した。ページをめくってみると、文集の中に私の名前は無く後ろの方に紙面の都合上一部省略させていたかきまるところに名前が記載されており、題名をみると「又、会う日まで」と記載されていた。内容については、まったく思いだすことができず、私の性格からすると、学校を卒業すると会う機会が

すくなくなり、お互いに元気に又会える日を楽しみにしている程度のことを書いたのではないかと思う。私も五十二歳にして、初めて救急車に乗ったと思ったら一年間に二回も救急車にお世話になり、「又、会う日まで」を迎えることなく終わりそうな昨年であった。寄稿されていた方々の名前をみると、同じ会社の方は名前と顔が一致するが、ほとんどの方は一致せず卒業してから歳月の永さを感じえない。

最後になりましたが、当時は、ワープロ、パソコン等はなく、文集はガリ版刷りで出来ており、これを作成された方の苦労に感謝し終わらせていただきます。

(西武鉄道(株)新宿線乗務所 勤務)

③ いわゆる名声と呼ばれるはかない物のためではなく、

(④へ続く)

これからの人生

第二十六回生 佐藤 光一



早いもんで東京交通短期大学を卒業して二〇数年経ちました。会社では、中間クラスで仕事をしています。なかなか人間関係は難しいもんですね。

今一番楽しいのは、スポーツをすることです。ちなみにバドミントンをしています。見た目より案外ハードですね、けどこの年になると、車がほとんどなので、足腰が弱くなってきましたね。あとリハビリを兼ねています。出来るだけウォーキングをしています。ウインタースポーツはショートスキーをやっていますが、子供が受験で今年に行けそうもありません。

これからの人生は、自分の事だけを考えているのではないですか。仕事をしていても、あと何年で終わりがかな、ふと考えたりしたことありませんか？

皆さんは、これからの人生、何をしようと思っていますか。わたしは、まだ見つかりません。少しずつ時間とって考えてみていいのか？電車ですらり旅、もいいかな。フリ

ーパスでいきあたりばったり、もいかな。
 何かまとまりがありませんが、これで終
 わりにしたいと思います。二十六回生の皆
 さんお元気ですか。なかなか連絡取れませ
 んが、お互い楽しいと思う人生にしまし
 ょう。

(株)市川毛織柏工場ニードル課 勤務)

飲酒運転について

第三十一回生 新井 信之



去年、新聞やテレビで
 高速路線バスの運転手
 が酒を飲み、バスを運
 転していたことでニュー
 スになりました。

テレビの交通警察二十四時で、飲酒運転
 をしているところを見ますが、酒を飲み車
 を運転して事故をすると最高五〇万円の
 反則金を支払うことを知っていますか。
 反則金が上がったわけは、数年前東名高
 速上り線で、飲酒運転をしていた大型トラ
 ックが、親子四名の乗っていた普通自動車
 にぶつかり、子供が二名死亡した事件がき
 っかけとなり、国土交通省を動かし、反則

金が上がったということです。

にもかかわらず、飲酒運転が無くならな
 いのは、どういうことでしょうか。
 そのためでしょうか、高速バスを運行して
 いる営業所が、路線の運行停止の処分を
 受けています。

私の営業所でも、出庫前と帰庫時にアル
 コールが残っていないかチェックしています。
 私の営業所でも、アルコールが身体に残っ
 ているためにタクシーの乗務ができなくなっ
 た人を見えています。

(日の丸交通(株)深川営業所 勤務)

一番の楽しみ

第三十六回生 高見沢 紀子

結婚して家庭に入つてしまうと皆様のよ
 うに仕事の話など書けなくて、何を書いて
 いいのか考えてみました。私にとつて今一
 番の楽しみは子供の成長なので、子供のこ
 とを書いてみたいと思います。

平成四年と五年に生まれた娘二人も今春
 で、小学校六年生と五年生になります。

上の娘しおりが、四年生の春に町の自治会を

通して同学年の子四人で神前神楽の会に
 入会して、舞を奉納する巫女をやつてほし
 いと頼まれました。四人とも巫女になれる
 と大喜びで始めましたが、これがとても難
 しく大人が舞つても免許皆伝された方にな
 ければ完璧に踊れないというものだったので
 す。

この舞は、浦安の舞といい紀元二千六百
 年(昭和十五年)に昭和天皇が平和を願つ
 て詠んだ句に音
 楽と踊りをつけ
 たものです。



「天地の神にぞ
 祈る朝なぎの
 海の如くに波立
 たせぬ世を」この句を、二回繰り返して踊り
 ます。始めは扇の舞、次は鈴の舞です。一
 年間必死に練習して一月の安市という町
 のお祭りで初舞台です。(上の娘は今年二
 年目です)美しい衣装を着て化粧をすると
 本当に神の使いのように見えるから不思議
 です。踊りが始まり優雅に舞う我が子を見
 ていると、いつの間にか大人と子供の狭
 間にいるような年になったんだと、自分の
 子なのに知らない誰かにも見え、その時だ
 けはいつも奇妙な感覚に囚われて
 しまいます。下の娘のぞみも去年の秋から入

会し、四月の初舞台に向けて姉と二人練習しています。とても美しく厳かな舞なので是非一度は見てほしいと思います。

日本全国の神社でやっていますし、おぶせまち小布施町では年に七〜八回、町内や隣町へ出向いて舞を奉納しています。今は、子供と一緒にいろいろなことにチャレンジしたり、そして共に成長していけたらいいなと思うことが私の一番の楽しみです。

HPの情報内容について

第三十七回生 遠藤 裕生



同窓会報への投稿は初めてなので自己紹介致します。現在、実験装置の自動化機器製造の会社に勤務して

います。在学中は、年に一回の東交祭以外にも学生のイベントを行う活動を発案し非公认団体学生会を仲間と作りました。学内木部のペンキ塗り替え、ボーリング大会の主催をしました。現在、私は短大でHP更新の作業を担当しています。その更新内容

を報告致します。

元々短大のHPは学内で「HP製作コンテンツ」として募集した応募作から朝倉氏の元を製作が始まり、それを引き継いだ栗田優一氏他数名によつて完成したものでした。そのHPは公開するのに修正が必要であつた為、私が呼ばれて修正作業を行い公開を致しました。

HPは毎年データの更新が必要で手間がかかります。そこで途中から学生要覧のデジタルデータを印刷所からPDFファイルで受け取り利用することに致しました。これによつて時間割のページなどを手作業で毎年更新する手間が不要になりました。

HPは情報としてだけではなく広告としても機能しなければなりません。そこで見栄えを良くするために専門業者による製作を試みました。しかし、印刷物の入学案内と同じ体裁になつてしまいネット上での見てくれと言う点で根本的問題があつたため業者はキャンセル致しました。

業者が駄目でもリニューアルは必要なので、私がとりあえず小手先ですがリニューアル致しました。改めて表紙用の写真を撮り直し、背景も夜学であることからブルートレインをイメージしたものに更新しました。サーバーの回線が遅いようなので簡素なデザインとデータ量で作っています。

昨年、MLで得た情報からJR485系シートの販売を知り短大へ購入を勧めました。納品されたシートに仮設置用の十二冊厚フラットバー取り付け工事も行い、現在入り口に座れる状態で設置しています。ネットの知人にシートの説明文を作成して頂いたものを学生会がプレートにして掲示もしています。せっかくですから、ただ置くだけではなく照明を工夫して演出したいところです。

HPには設備や備品に関する情報発信とデータ公開も重要と考えています。このシートに関するページは教育機関と言うより個人HPのようなノリで歴史を考察研究して製作いたしました。同じように当校への丸ノ内線車両搬入のページは私個人のHPデータを転載し協力しています。何分、一ヶ月に数日お手伝いするだけなので時間的に難しいのですが、これからも当校、学園の財産を活用して情報発信をしたいと考えています。受験生への広告だけではなく、これからは研究者の役に立つHPでなければならぬからです。

何分掲示板を設置していませんので反響がわかりませんが、会員様からのご感想・ご要望お待ちしております。

(株式会社アトム・エンジニアリング 勤務)

卒業してから

第三十七回生 岸 孝生



平成二年に卒業してから、今春で十四年になります。卒業後、国際興業に入社。路線バスの営業所事務員にな

りました。短い間にいろいろなことがありましたが、めげずに頑張りました。赤羽、飯能と営業所をまわり、平成九年春に事務職合理化のため退職。それからしばらくの間、職を転々としてきました。このままではいけないと、地元のタクシー会社に再就職したのは平成十二年の春のことです。

以来タクシーに乗り続けています。朝五時に起きて、五時二〇分には家を出ます。徒歩で二〇〜二十五分ほどで会社に着きます。営業車を点検し、営業用メーターの指数(営業回数や営業キロ等のデータです)を確認します。営業に出るのは六時からです。地元は地方都市並みですので都区内のように、流しの営業は行っていません。駅に待機して乗車するお客様を待つか、無線配車の指示を待ちます。昼食、夕食等は、お客様の動きの止まった時間(少ない時

間)を選んでとります。休憩や仮眠も同様です。退勤時間は、翌日の午前二時半ですが、無線の仕事がある三時半までには極力仕事をするようにしています。最後は、洗車と売上金の納金です。これが終わればその日非番となり休みです。最近は景気の低迷により、毎日の手取りが減り続けています。正直なお話ここでは手取りのことは恥ずかしくて書けません。それだけ悪化しているのです。

そのため、今考えているのは転職です。生活の安定と人のためになる仕事がしたいと思ひ、ホームヘルパー二級を取得しました。これから目指す福祉の仕事は、心身共にかなり辛い仕事ですが、前向きに辛抱して続けてゆきたいと思ひます。最後に私のことを支えて、応援してくれた皆様に感謝しております。ありがとうございます。乱筆乱文にて失礼しました。

(大津自動車交通株式会社 勤務)



スポーツ興行の苦労と演出

第三十八回生 渋谷 大



「プロスポーツイベント」として全国各地を飛び回り、自宅で過ごすのはオフシーズンの数ヶ月くらいだろうか。春

が待ち遠しく思う昨今。「ゴルフ(男子、女子他)」「サッカー(Jリーグ、W杯他)」「モータースポーツ」等々に携わる。

栃木県にある「ツインリンクもてぎ」においては、全国のゴルフコースを訪れると共に通い詰めている場所であり、「オーバル」と呼ばれる日本唯一のコースを使用するレースや国際ロードレース等には必ず現場に赴いている。私は主に「来場者輸送」の業務に就き、定期、チャーター、シャトルバスの運行管理、案内、広報を行っている。特別興行時は場内外車場と観戦エリア間に輸送車両を運行し、一般車渋滞を起ささないようにしている。シャトル便は四社で場内外七路線を約五〇台で運行。チャーター便は指定駐車場で指定時間まで駐機させる。が、来場者ピーク時は容易でない。定期便(水戸駅

行き、宇都宮駅(茂木駅経由)行き)に至っては、降車は既存の停留場を使用、興行終了後は混雑緩和と演出で「オーバル」コース内にて乗車場を仕立て運行させることもあった。数分前までレースが行われていたコースを使用するため、好評のようだ。私はその中で、乗客振り分けの案内業務を拡声器一本片手に行う。最終便の発車時刻が迫ったファイナルコールを行うときには、スタンドも先程の歓声が嘘のように静かであるが、発車時刻(二分遅らせる演出付き)なのだが、大会関係の方々にはこれが好評のようだ。機会があったら行ってみたい。本田の名機、名車たちも待っています。特に自動車部員(OB、OG含む)は自身のマシンを持ち込んで走行してみればどうだろうか。S士先輩、S藤先輩、I泉先輩、E先輩。お元気ですか?山ちゃんとは今度どこかで会えるのかな?V&Jリーグ観に行きましょう。

(株)YCSポーツイベント部 勤務)



憲法論議について

第三十九回 宇賀治 博樹



ついに自衛隊のイラク派遣が現実となつてしまった。政府は人道支援を強調しているが、特措法には「安全確保

支援」という暗に占領軍への支援の任務が含まれていることを重視したい。自衛隊には応急措置的な復旧はできても、イラク国民が真に求めている破壊された施設の復旧は、専門の機材と技術者でなければできないであろう。不戦国を誓った我が国らしい支援の方法があつたと思えてならない。今も連日戦闘が続いている。「自衛隊が行くところが非戦闘地域となる」など、どのように理由付けしようと、日本国憲法に抵触しているだろう。

先日、憲法に関する世論調査の結果がある誌上に載っていた。その理由は「憲法の規定(戦力不保持などの九条)が時代に合わなくなっているから」が半数を超えた。戦後我が国は三〇〇万余の国民、二千万の他国民の犠牲の上に平和憲法で不戦を誓った。もう後戻りはできない。先の湾岸戦

争でも派兵せずにアラブの国々から良い評価を受けている。中東ばかりでなく世界において不戦と経済貢献で長年積み上げてきた信頼は大きな国益となつている。自国優先の一国主義的行動に反米感情の高まる中、この誇るべき信頼が派遣によって揺らいでしまうのは残念なことだ。

我が国がアジアにおける侵略や植民地支配など、誤った戦時期に突入した歴史の事実を考え「過ちは一度と繰り返すまい」と不戦を誓い、戦争を知らない世代を中心にアジア諸国への加害の歴史認識や、個人が大切にされる実現こそ「恒久平和の道」であり、それは世界に向かつて武力を国際紛争解決の手段として使わないと言う、我が国の憲法精神を知らしめ、広めていくことが大切である。戦後五十九年経つた今も、我が国はこの憲法を曲がりなりにも守ってきた。しかし、それは我が国の立場だけではなく、世界平和のための共通する精神として認識し、守り続けることが重要である。今我々有権者が憲法改正を容認することは、時代の明暗を分ける分岐点になるのではなからうか。今一度問いたい「過去の過ちを繰り返すのですか」と。

(CFSCコーポレーション 勤務)

④ 人が備えねばならない物を身につけるために、
(⑤へ続く)

車漬けの生活八年目

第四十三回生 渡辺 夏雄



スカイライン、セフィロ、ティアナ、エルグランド、マーチ、キューブ、サニー……あげたらきりがない程、豊富な日産車の車種。これらの車たちに囲まれながら早八年になろうとしています。その会社とは、日産レンタカーでおなじみの(株)日産ファイナンシャルサービスです。元々は、日産観光サービスが前身で、日産カーリースを経て、平成十二年七月より現在の会社名となり今に至っています。レンタカー営業所の仕事は、主に洗車、車両回送、カウンターでの貸し渡し業務が多く、平日の日中は、ディーラーや修理工場、一般企業に営業にまわり、レンタカー促進をお願いしています。

今一番の売れ筋は、マーチ、キューブ、エルグランドです。特にマーチはデザインも車両の取り回しも人気があり、土休日にはほぼ満車になるくらいです。一般のお客様以外にもディーラーや修理工場の代車、そして被害事故にあった人への損保代車として、皆さんも利用された機会があると思われる

ます。今私は、日産レンタカーの行徳と市川の営業所に勤務しており、特に市川営業所のスタッフリーダーという役職に就かせていただき、一つの拠点を任されており毎日が充実しております。行徳営業所勤務が主ですが、こちらでは、ディーラー各社との付き合いが多く、車両のメンテナンスについてもいろいろ勉強でき、車好きの私にとつて天職であります。新年より、新人三名の教育係にも任命され、社内の営業コンテストにて二位の成績を修めることもでき、今後ますますレンタカーの仕事を楽しみながら続けていきたいと思っております。

(株)日産ファイナンシャルサービスレンタカー事業部 日産レンタカー行徳営業所 勤務)

私の職場紹介

第四十四回生 宮本 誠



私は、JR東日本の高崎電車区で、電車の運転士をしています。高崎線を中心として、上越線(高崎〜水上間)、両毛線、信越線に乗務しています。同じ職

場には、電車の他、八高線の気動車やSLの運転士もいます。

乗務線区が南北に長いので、いろいろな風景に出会えます。例えば、同じ日に都心で満開の桜を見た後、水上で雪景色というところがあります。山登りやハイキングのシーズンになれば、大きなリュックを背負った方々がたくさん乗ってきたり、寒くなればスキーやスノーボードを抱えた若い人たちが混雑します。旅行に行かれるお客様ばかりでなく、通勤、通学に利用される方も少なくありません。高崎線では、十五両の電車に四、〇〇人以上のお客様が乗っています。あまりの多さに圧倒されて気が引き締まります。

気象条件による列車への影響も多々あります。夏の集中豪雨や冬の雪、強風で列車が止まることがあります。電線にビニールが絡みついたり、風や雨、雪の重さで木が倒れたりします。私は昨年、倒れかかった木と接触し、二時間ほど列車を止めてしまいました。お客様や私には幸いにも怪我はなかったのですが、もし、木が完全に倒れていたら……と思うと背筋が寒くなります。自然が相手だけに、いつ何が起こるかかわからないので、いざというときに適切な対応がとれるように、日々努力しています。

乗務員の仕事は、決して楽ではありません

ん。時間が不規則で、精神的に辛いことが多くあります。そのような状況ですが、これからも無事に運転士を続けていければいいと思います。

(東日本旅客鉄道株式会社)

高崎支社高崎電車区 勤務)

首都圏の鉄道網

第四十四回生 津森 隆

私が担当している線区に、湘南新宿ラインがあります。JR東日本の松田昌士会長の、「新線は造らない、既存の線路を活用して新たなネットワークを構築する」という言葉のもと、東海道・東北・山手・武蔵野各貨物線を利用したライナーや池袋発着の高崎・宇都宮線、また多くの臨時列車が設定されました。それらの集大成がこの湘南新宿ラインだと思います。

少子高齢化時代に突入し利用者が伸びない今、関東の鉄道も関西と同様競争の時代に入っています。言葉は悪いかもかもしれませんが、もうこれからはパイ(お客様)の奪い合いです。この湘南新宿ラインで例えるなら、今まで横浜から渋谷・新宿・池袋

方面に出るには東急東横線を使い渋谷へ出て山手線利用というというのが一般的でしたが、乗り換えなしという利便性から多くのお客様にご利用いただけるようになりました。要するに奪ったということです。

しかし敵(東急)も黙ってはいません!この構想を打ち出した直後に「東横特急」を設定し、当社よりも先に運行を開始しました。さすがは首都圏でトップクラスの会社、「小回りが利くなあ」というのが素直な感想でした。

当社のいわゆる競争相手というのは様々で、既存の京急・京成・東急等はもちろん横浜高速鉄道・つくばエクスプレス・地下鉄十三号線など……。中でも特にこの十三号線は脅威で、ほとんど湘南新宿ラインとつぶっており、池袋の立体交差化工事完了によるダイヤ改正でのさらなる利便性の向上が待たれるところです。

お客様に選択していただくには、前述の利便性はもちろん、安全・安定・低廉・快適・速達のすべてがカギです。個人的には他の私鉄よりもまだまだ離されていると感じていますが、駅では単なる通過点ではなく滞在していたかどうかの思いから生活サービス事業も盛んですし、エスカレーター設置などのバリアフリー化も急ピッチで進んでいます。私自身も運転士として今何が出来る

か、何が必要かをよく考え邁進して参りますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、今回このような執筆の機会を下さった短大同窓会関係者の皆様に深く感謝いたします、ありがとうございます。

(JR東日本東京電車区 勤務)

後輩たちへ

第四十四回生 嶋沢 敏志



卒業して十七年が経過しようとしています。卒業後、東京都交通局に入り、地下鉄駅務員になりました。私は昔

から学問が得意ではなかったので、運が良かったのではないかと思っています。ゼミの同期仲間の多くは、JRや都営など鉄道に就職しました。卒業できたのは仲間たちや先生方のおかげだと思っています。家族の支えもありました。

短大の二年間は短かったように思います。人生の分岐点と言っても過言ではないと思います。短大やバイト、趣味等を通じて自

分の適正を推し量る大事な時期です。後輩たちには自由にあらゆることに挑戦していつてもらいたいです。鉄道が全てではありません。視野を広げて前進してください。また家族、友人、恋人を大事に守ってください。

入社して最初一ヶ月は研修、その後各駅に配属、私は浅草線泉岳寺駅でした。初めの一年は泊まり勤務や人間関係等でかなり苦労しました。ちょうど京急が羽田空港駅開業でダイヤが過密になったときでした。都線内急行のエアポート快特・特急ができたときは現場はかなり混乱したのを覚えています。やがて大江戸線冠状部が完成し、麻布十番駅開業に立ち会いました。ホームが深くまた連絡駅なことから、お客様への案内が多く大変でした。汐留開業を機に築地市場駅へ異動、入局して六年を迎えます。一昨年結婚し、まもなく一児の父となります。時は経つのは本当に早いです。

私は特技はありません。また資格も運転免許があるくらいです。ただこれまで一貫してやってきたことがあります。それは正しくまじめに生き抜くと言うことです。努力して誠意があり、まじめに生きていけばいつか必ず報われる日が来ます。幸せを強く願ってください。後輩たちの健闘を祈ります。

(東京都交通局大門駅務管理所 勤務)

交通短大を卒業して

第四十五回生 佐藤 博



交通短大を卒業後、営団関連企業の財団法人地下鉄互助会に入社し営団地下鉄の広告をメインに仕事をし

ていましたが、近年の特殊法人改革で同グループ内の地下鉄トラベルサービスへ転籍となり、以前同様、広告の仕事をしております。現在、東武鉄道・東葉高速鉄道の広告担当・埼玉高速鉄道の全広告の管理運営をしております。入社直後は短大時代に「不合格」になった鉄道会社へ行く機会が日常的にあり、不思議な思いをしながら仕事をした記憶がありました。今では鉄道への夢を持っていた頃、短大で馬鹿な話や鉄道の話をしていたのを懐かしく思います。

広告業界で「鉄道好き」は少数で、鉄道の知識を持った自分は「広告マン」とは違う見方や考え方を持っているので、貴重な意見を持った人物」となることがあり、新しい鉄道広告を提案すべく日々精進しております。

以前、学校で「鉄道は走って当たり前、付加価値をもった商品にすれば、結果はついてく

る」と教わった記憶があります。が、自分としては「鉄道は移動手段だけではなく、おとなの遊び道具になる」と考えます。真面目な顔してもの凄くクダラナイ事を考えその結果、利用者が楽しんでくれる新しい鉄道像を提案できれば、鉄道の地位向上、鉄道好きの社会的地位の確立、それに対する責任を果たすことが出来ると私は考えます。

四月に営団の民営化「東京地下鉄株式会社」が発足するのの際に、自分も担当者としてこのプロジェクトに参加することになりました。以前に傍観者だった「国鉄民営化」を手本に今後、自分が今後あるべき姿、結果、責任を果たして行こうと考えます。

(株式会社地下鉄トラベルサービス 勤務)

今の自分

第四十五回生 山崎 修



拝啓、同窓会員の皆様方のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

さて、私も交通短大を卒業し六年が経ちます。六年前を振り

返ると楽しかった仲間との学生生活、希望を持ち望んだ就職活動などが思い出されず。交通短大での一番の思い出というのはやはり、仲間との思い出です。ボーリング部で知り合った同級生や先輩、後輩。ゼミで知り合った同級生。同じ講義で知り合った仲間など様々です。そんな仲間の顔や当時のことを思い出すとんだかうれしくて、胸が熱くなる思いがします。そんな仲間に出会えたことに感謝しています。

さて、卒業後私は地元の工務店に建築大工見習として就職しました。最初の四年間は見習いで、四年以降は一人前として見なされます。一人前になると現場を丸々一棟任せてもらえるので、いかに見習いの四年間で技術を身につけ、信頼を築くか。それが出来ていないと、四年経つても現場は任せてもらえません。従って、修行期間の四年間はみんな必死です。そんな修業期間を送るうちに、社会人とはどういうものなのかも学びました。よく、「世の中そんなに甘くないよ」なんていうことを聞きますが、その通りだと思います。建築業界でも不況の波を受け、小さな工務店はどんどん潰れているそうです。そんなあおりを受け、私の勤めている会社では、自分で何でも出来るように「大工」という枠を越え、家造りに関するいろいろな仕事をやっています。木

造の建物だけではなく、鉄骨造りや鉄筋コンクリート造りの建物など、いろいろな仕事をやるようになりました。この他にもいろいろなアイデアを出したり、少しでも経費を削減する等、常に考えながら仕事をしています。

最後になりますが、今私が思うことはこれから先仕事をして生きていく上で、毎日の積み重ね、日々努力というものがとても大切であると考えます。今は「日々前進」。そんな思いでいっぱいです。

学生時代から今までを振り返って

第四十五回生 若林 宏幸

月日の経つのは早いという言葉が本当にその通りだなと感じている今日この頃、明日から入社六年目社員対象の研修に行く用意をしながら、もう六年も経つたのかと思います。

短大に入学して一年二年とどんな科目を受けたのかなと思いついてみると、特に印象に残っているのは中山先生の国際観光論です。世界の観光についての勉強はあが、いつも違う方向にいつてしまつて楽しかつ

会 計 報 告 書

(平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日)

平成 15 年 4 月 1 日

東京交通短期大学 同窓会

収入の部			支出の部		
項目	金額(円)	適用	項目	金額(円)	適用
繰越金	1,075,769		集会費	69,237	幹事会(H14/9/21)
会費	495,000	5,000 円×99 名	事務費	0	
臨時会費	33,000		通信費	388,390	会報 27 号印刷発送代、東交祭案内等郵便代等
雑収入	36,150	ご寄付、預金利息	渉外費	72,000	会長賞記念品代、卒業式等ご祝儀
			会議費	17,800	会報発送作業等
			雑費	2,598	
			繰越金	1,089,894	
収入計	1,639,919		支出計	1,639,919	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

平成 15 年 4 月 1 日

会計監査

堀

丈夫[㊞]、

村越

輝夫[㊞]

たですし、心理学では人との関わり方や距離など今でも役に立っています。こう一つ一つ考えていくと、当時の授業もそうです。先生方が本当にユニークで毎週楽しみだったなと思います。そんな講師陣の方々も、年一回送られてくる時間割を見ると、名前がなかったりして年々淋しくなってきたなと感じています。入学して友達を多く作ろうと思いい、鉄研部に入りました。そこで友達や後輩、先輩方と知り合って本当に良かったと思います。今でも付き合いがあったり、年一回葉書が届いたりして、もしあそこで入部していなかったらどうなっていたかと考えてしまいます。今回の原稿の話をいただいて一度池袋へ行ってみました。いつもお世話になっていたラーメン屋さんが無くなっていたりして、何となくショックだった部分もありましたが、ほとんどそのままでした。部活の帰り先輩方やみんなといった金魚鉢パフェのお店も健在で、六年前がとも懐かしく思いました。

私は今中央線で運転士をしています。幸いにして人身事故にはまだ遭っておりませんが(笑)、仕事中に隣の線路を鉄研時代の友達が車掌で乗っていたり、同じ列車を担当することも数秒でも話ができてうれしいです。

結局書きたいことが多くてまとまりがな

くなりりましたが、これを読んで一人でも多く学生時代を思い出していただければうれしいです。

(JR東日本豊田電車区 勤務)

自己改革

第四十五回生 泉 隆明



平成一〇年に入社してからJR生活のうち、半分は見習い生活といつても過言ではなかった。この間、五人の教

導員について、人に合わせる事が苦手だった私は、見習いに付く度に苦労した。なぜならば、自分の殻を破る事が出来なかったからである。しかしある時、社内研修で短期間にチームワークを築くためには、自分をさらけ出すことが必要だと学んだ。目からうろこが落ちた気がした。早速、背伸びをせず等身大の自分である事を心がけ、人に接した。気が付いたら、今まで、職場で私の事を敬遠していた人とも交流が深くなった。自分の殻を破る事に成功したのである。

また、先日別の研修に参加した。この研修の題材の中に、教導員と見習いのそれぞれの問題点が列挙してあるものがあつた。それを見て、なんだか複雑な気持ちになつた。それは、昨年のこの時期にDC転換のため、見習いをしてきた。当時の私は、背後要因が悪すぎるから覚える事は無理と、完全に開き直っていた。また、このときの教導員は、使命に燃え、かつ、一〇〇%自分の型にはめないと気がすまない人だつた。だから当然のように衝突し、険悪なムードになり、見習い生活が針の筵の上にいるようであつた。つまり、お互い列挙してあつた問題点にすっぽりはまつていたのだ。だが、今回初めて教導の視点から考える事が出来、あのときの教導の親御心を知り、努力しなかつた自分を反省した。

そして今は、他の見習いが経験したことの無い貴重な経験をしたのだから、これを元に成長しなければならぬし、更には、今後つけるであろう見習いを教えるための糧にしなければならぬと思つている。おそらく、短大時代の私だつたら考えもしなかつたことだろう。このことは、JRに入ってから大きく成長した証だと思つている。

(JR東日本新潟支社新津運輸区 勤務)

⑤ 大志を抱け。

(クラーク博士)

念願の運転士への道と 安全・安定輸送

第四十五回生 竹下 光



私が東交短大を卒業してから、早いもので六年が経ちました。今現在も、短大の同期の友人たちとはよく電話やメールで連絡を取り合っており、仕事をわらないことを相談したりしています。

平成一〇年四月に入社し、最初は牛久駅に配属になりました。約一年駅勤務に就き、平成十一年七月に土浦運輸区に転勤となりました。車掌業務を経て、平成十三年九月念願の運転士になりました。現在、常磐線上野〜勝田間に乗務し、充実した日々を過ごしています。

少年の頃からの夢であった運転士への道は、まず研修センターにて三ヶ月学科講習を受けます。覚えることがたくさんあり、学生の時以上の勉強をしたと思います。学科講習の後、今度は技能講習を三ヶ月間行い、実際の電車を使って技能試験に向けて練習します。そして、技能試験を迎えるわけですが、試験終了後、試験官の先生から

言われた「合格」の言葉は今でも忘れることができません。

私たち運転士にとって一番大切なことは、「お客様の命を守る」ということです。そのためには「基本動作・確認の励行」が絶対に欠かせません。一つでも確認を怠れば、事故につながります。「安全・安定輸送」も決して忘れてはなりません。私たちの「命」です。

これからも「ナンバーワンの運転士」を目指し頑張る所存です。

(東日本旅客鉄道株
水戸支社土浦運輸区 勤務)

違法駐車と 放置自転車問題を考える

第四十八回生 鈴木 弘昭



現代人の生活になくてはならない存在となっているクルマ・そして自転車。誰でも一度は利用したことがあるだろう。つい、と思つてその辺の道端に置いておく光景。しかしこれは地域の暮らしに大きな迷惑となつているのである。

では、実際にどういった形で「迷惑」となっているかというと、放置された自転車が歩道を占拠していることよつて、歩行者の通行に影響が出ている。また路上に駐車されたいわゆる「青空駐車」によつて、路線バスの定時運行や救急車・消防車の走行の妨げとなつているという結果が出ている。自動車や自転車を利用する人に対して、駐車場・駐輪場を利用しましょうという呼びかけがあるが、やはり「急いでいる」や、「ちよつとだから」という理由で青空駐車などをするのはないかと思う。

道路交通法では交差点やバス停留所の周辺など、限られた部分に車を止めた場合は違法駐車として取り扱われるが、それ以外の場所では何も罰則がないのが現状である。一番の解決方法としては、路線バス等優先通行帯(いわゆる「バスレーン」)に車を止めた場合、路線バス運行時間帯は規制時間帯に関係なく駐車規制を課し、またここに駐車違反した者に対しては駐車違反の罰金を重くするような法律を作るべきではないかと思う。

各地で問題となつている放置自転車。しかし撤去しても放置自転車を引き取りに現れない利用者が数多くいるのが現状である。川崎市でも、保管手数料で自転車の撤去に要した費用を賄い切れていないのが現

状である。保管期限が切れた自転車は破砕処分されることになっているが、引き取られる自転車より破砕処分される自転車が多くなってしまうからこのようなことになつてしまふのではないかと思う。

自治体や警察も、いかに「違法駐車等をしにくくしていくか」を考え、市民の快適な生活環境を構築してほしいと思う。

(駿河台大学法学部卒業)

私の仕事

バイク便とは

第四十九回生 我妻 健一



現在私はバイク便の会社に勤めています。といっても学生の方は利用される機会がないと思いますので、今ひとつどんなことをしているか理解しにくいと思います。そこでうちで扱っている大きな二つの仕事を簡単に説明させていただきます。

まず一つは、AからBへの荷物移動のやりとりです。これは大急ぎの場合の仕事で、たとえば東京から横浜まで至急の荷物を

届けてほしい時です。この仕事が最も多く、バイク便の代名詞といえる仕事です。

もう一つは、うち独自の仕事です。それは二十三区内だけです。三、四時間掛けてお荷物を届ける仕事です。ライダーは一つのエリアを担当し、その中で引き取りや届けを行います。そこで引き取った荷物は一定時間ごとに営業所へ戻り、他の営業所へ回します。その時他の営業所から来た荷物を受け取り、またエリアで届けを行うという郵便局のような仕事です。最近では信書も運べるようになりました。簡単に説明すると郵便局と同じものを運べるようになったのです。今後もっとも成長が期待される仕事です。

バイク便の仕事の特徴は、どんな場所でも行けると言うことでしょう。TV局などで一般の人の入れないところに入れたり、ツーリングのように遠いところまで荷物を届けたりと飽きが来ません。

しかし、バイクに乗ってむき出しで運転していますので、運転にはとても気を遣います。また、雨の日などは路面が滑りやすく、視界も悪いので大変です。

そんな思いをしても急ぎのお荷物を届け、お客様から感謝されると次もがんばろうとやる気がでます。また、いろいろな人とも出会えてとても勉強になります。この時

代に社会で人から直接感謝される、大変やりがいのある仕事だと私は思います。

(株式会社ソクハイ 勤務)

在校生特別寄稿

学生会

深野 資学



私達学生会執行部は、学生のみならず、良き生活出来る為、頑張りついでいます。例えば、喫煙所の灰皿がバケツだけだったので、頑丈で倒れにくい灰皿を二つ購入したり、トイレにコートなどの上着が掛けられる所がなかったので、フックを購入したりしました。他にも要望があれば、随時検討して出来る限りのことをしていくつもりです。その他、交通短大の行事、新入生オリエンテーションやオーブンキヤンパス等の企画・運営もしています。その中でも一番のメインが東交祭です。昨年好評だった

丸ノ内線の開放や、飲食店、模擬店なども各ゼミや部と協力して狭い敷地を有効利用し、交通短期大学の長所を生かした店で盛り上げますので、皆様期待して下さい。これから応援宜しくお願いします。

(二年次在学中)

短大生活を振り返って

山本 佳成



私の短大生活がまもなく終わろうとしている。思えば静岡から不安いっばいで上京し、一人暮らしを始めてから現在

まで、本当にあつという間だったと思う。卒業するのが少し寂しく、後一年位居たいほど充実した学生生活だったと思う。ここでは、自分は二年間で何を学んできたかを振り返ってみたいと思う。

短大生活で得たもので最も大きなものは、やはりかけがえのない友人たちである。部活で出会った友、授業で出会った友、ゼミで出会った友と出会いの場は違ったが、今では全員が大親友となり、時には飲みに行った

り、就職活動中はお互いに励まし合いながら頑張ってきた。そのおかげで私も念願であった鉄道会社から内定をもらえたのだと思う。私の短大生活は友人たちをなくして語れない。四月からはそれぞれ別の道を歩んでいくが、私はこれからも一生の宝として大切にしていきたいと思う。

私は短大生活で責任感を学べたと思う。それは、二年次にボウリング部部长を務めた影響が大きい。総勢二〇名にもなる部員を統率し、ボウリング大会の運営や東交際への出店等をしたことで、今までの私に欠けていたリーダーシップをとること、責任を持つて物事をやり通す力が身に付いたと思う。これは、部員たちの協力があつたからこそのもので、一年間頼りない私を信頼し、付いてきてくれた部員たちには心から感謝している。

他にも、就職セミナーや卒論作成等、辛いことや楽しいこと様々なことがあつた二年間であつた。私は東京交通短期大学に入學して本当に良かったと思つている。短大生活で学んだ全てのことを、四月からの社会人生活の糧にして頑張っていきたいと思う。最後に、私の短大生活を支えてくれた家族・友人・先生方に心から感謝の意を表し、本文の終わりにしたい。

(二年次在学中)

編集後記

今年の会報は二十八ページと過去最高になりました。いままで二〇ページを超えたのは、平成八年に発行した二〇周年特別号の二〇ページ、昨年に発行した二十七号の二十四ページに続き二度目です。これも同窓生皆様のご協力の賜です。

今号には篠崎副会長自らお描きになった似顔絵や三十六回生の高見沢さんからは娘さんの写真をお送りいただきました。ちよつとした変化ですが、制作する側として大変うれしく思います。今後も、皆様の協力の下、少しでも皆様に気持ちよく読んでいただけるよう、楽しんでいただけるよう、懐かしんでいただけるよう、執筆いただいた方の思いが伝えられるように制作していきたいと思ひます。

会報制作作業、会報発送作業など同窓会活動に積極的に協力して頂ける方、同窓会事務局までハガキまたはメールにて連絡ください。お待ちしております。

今回は会報発送作業をご紹介します。有志数名が三月初旬川島会長宅に集合↓約二、〇〇〇通の会報を封筒封入↓封閉↓郵便局へ持参します。

(編集委員長 N)